

他社の出来ない様な仕事をやりとげるといふ強み。

角南博和

(代表取締役 / 営業及び生産管理全般)



もっと生の声

Q & A

— 一番苦労した改善作業は何ですか？

縫製作業が済んだ生地を自動で重ねる“スタッカー”の改良です。人がその都度立ち上がって縫い終わった生地を重ねている作業を自動で行う装置ですが、なかなか生地を確実に掴みず、完成までに2年近くかかりました。

— 今までどんな改善に取り組んでこられましたか？

脇縫いに使用するアタッチメントは通常5mm程度ですが、10mmの地縫いが出来るように改良し、ガイドに生地を当てさえすれば、初心者でも縫えるように改良しました。コインポケットを縫うためのミシンには、位置を決めるための光電管を取り付けるということもしました。効率化だけでなく、作業をしやすくすることにも積極的に取り組んでいます。

— 働く方のために、色々工夫をされていますね。

当然ですが、土日は完全に工場を休み、休日もしっかりとれる環境です。ほかにも、若い人に経験を積んでもらうため、工場では、業務自時間外にミシンを好きに使ってよいことにしています。もちろん翌朝に元に戻せることが前提ですが(笑)。自分用でも、家族や友人用のものを作ってもいいです。自由な発想で経験を積めることは、よい経験になるのではと思っています。

大学卒業時は不況の時代で「父が経営していた会社に就職する道しかなかった」という角南社長。「就業時は、ほぼ100%がナショナルブランドのジーンズの縫製をしていましたが、時代と共に多品種少ロットへと転換していく中で、次第に他社の出来ない様な仕事でも受けなければやっていけないと考えるようになりました。社員の誰もが高い縫製技術を持っているわけではありません。どうしたら社員の誰が縫っても、同じようにきれいに縫えるか悩みました。そして、試行錯誤の末、ミシン等の設備の改良や縫製方法を見直すことでその問題解決にたどり着きました。」

現在は、約20社の得意先からの受注対応を始め、ミシン等の機械の改良、縫製方法の改善などにより作業の効率化にも力を注いでいるそうです。「ベターではなくベストを尽くす。全てはどこかにヒントがあります。いろいろなところからきっかけをもらい、工夫や改良をすることでベストに近づくと考えています。」

